

飲水思源

町長 松岡市郎

企業の挑戦に学ぶ、米菓「ゆめぴりか」

J Aひがしかわの樽井功組合長らに帯同させてもらい、取引のある会社を訪問することができた。その一社は株式上場もしている新潟県の岩塚製菓（榎春夫社長）である。1947（昭和22）年の創業から70周年が経過している。創業精神は「出稼ぎしなくても暮らしていける豊かな地にするために産業を興そう」で、いも飴や水飴づくりからスタートした会社である。

ものづくりへの思いは「農産物の加工品は原材料より良いものではない。だから良い原料を使用しなくてはならない」が基本的な考え方となっていると学んだ。

2004（平成16）年の中越地震による大きな被災後、全社員が心を一つにして復興に当たり、長く続いた苦難を乗り越えて現在に至っている。美味しさを追求し、米菓の原料を100%国産米へ移行したのが2011年。国産米の使用が地域や日本の農業を支えることになる、との強い信念からである。価格競争だけではない高品質商品づくりと地域社会への貢献が会社経営の大きな柱となっている。

こんな素晴らしい会社とJ Aひがしかわとのコラボ（共同）が201

6年から始まっている。東川産「ゆめぴりか」を使った期間限定商品の米菓が全国で販売されるに至り、好評を博しているという。とはいえ、私たちにはまだ馴染みは薄い。

東川からの今年の原料供給量は前年の3倍。しかし原料確保に限度があるため、11月の期間限定製造計画になっているという。試食してみたが実に柔らかく、後味がなんともいえず、止められない、止まらない味である。国内の一人当たり米消費量が年々減少していく中であって、最高の原材料を使って最高味の米菓づくりには挑戦し続けること、さらに国内だけでなく海外へ向かっての消費力向上のための発信も素晴らしいものがある。

榎社長には夢がある。米菓（BEIKA）を世界の共通語として流通させよう、という思いだそう。共感するところ大である。東川町は多くの国から語学留学生も多い。東川産「ゆめぴりか」の米菓を食していただき、広く「BEIKA」として流通する輪の拡大を図っていききたいものである。そのためには良質な原料確保が第一であり、再整備事業で大型化工事中の水田の次年度復田に期待したい。

自衛隊防災BOOK（一般書）

自衛隊・防衛省／著 マガジンハウス／刊



9月に厚真町など胆振地方で起きた地震は、北海道の広範囲に大きな被害を残しました。東川でも町内停電中に困ったことや不便なことがたくさんあったと思います。地震、台風、豪雨など、突然起きるまさかの事態から日常生活に使えるライフ・ハックまで、危機管理のプロである自衛隊テクニックで日々の備えを。

下町ロケット ヤタガラス（一般書）

池井戸潤／著 小学館／刊



社長・佃航平の閃きによってトランス・ミッションの開発に乗り出した佃製作所。しかしその前に帝国重工の新たなプロジェクトが立ち塞がる。大きな挫折を経験した者たちの熱き思いとプライドが大激突。準天頂衛星「ヤタガラス」が導く壮大な物語の結末や如何に？ 前巻『下町ロケットゴースト』に連なる「宇宙から大地」編、クライマックスへ！

貸し出し図書ビデオ紹介

せんとぴゅあⅡほんの森

7月、せんとぴゅあⅡに新図書室「ほんの森」がオープンしました。新図書室では本の貸し出しも始まりました。

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています
図書、紙芝居、雑誌は一人合計10点まで15日間、DVDは一人2本まで8日間

春までぐっすり（絵本）

三木卓／文 ラウラ・ベレーヴィチャ／絵 かまくら春秋社／刊



ある秋のこと、若者はおかゆを作っていたおかみさんから、麦干し部屋で働いているみんなを呼んで来てほしい、と頼まれました。ところが若者は、道の途中で咲いていたレディスマンツルのつゆを吸って眠くなってしまい、そのままぐっすり…。ラトビアの民話をもとに東川で作った絵本。